

学位審査結果報告書

学位申請者氏名 秋山 理加
学位論文題目 介護施設利用高齢者における簡易嚥下状態評価票 (EAT-10) と口腔内環境, 口腔機能, 栄養状態との関連

審査委員 (主査) 藤井 航

(副査) 柿木 保明

(副査) 福原 正代



学位審査結果の要旨

本論文は、簡易嚥下状態評価票 (EAT-10) と口腔内環境, 口腔機能および栄養状態との関連性を、反復唾液嚥下テスト (RSST) との比較により明らかにすることを目的としたものである。

対象は、介護施設利用高齢者 90 名 (男性 21 名, 女性 69 名, 平均年齢 86.0 ± 7.2 歳) である。方法は、歯面清掃度などの口腔内環境因子, 開口度などの咀嚼機能の因子, 自覚症状の因子および簡易栄養状態評価 (MNA-SF) を用いて、EAT-10 および RSST による嚥下機能リスク群と良好群で比較検討を行い、パス解析を行っている。

その結果として、EAT-10 による嚥下機能リスク群では、歯面清掃度, 開口度, 飲み込みにくさおよびむせの自覚症状との間に有意な関連がみられ、一方、RSST による嚥下機能リスク群では、開口度, 舌運動, 噛める食品数, 飲み込みにくさおよびむせの自覚症状, MNA-SF との間に有意な関連を認めていた。これらの因子を用いたパス解析の結果、EAT-10 と RSST との間に弱い相関を認め、EAT-10 からは歯面清掃度, 舌の汚れ, 飲み込みにくさおよびむせの自覚症状へのパスが示され、RSST からは舌運動と噛める食品数, MNA-SF へのパスが示されている。

本研究では、EAT-10 は主に口腔内環境因子と自覚症状因子への影響を示しているのに対し、RSST は主に咀嚼機能の因子と栄養状態の因子への影響を示している。つまり、EAT-10 による嚥下スクリーニングは RSST を用いた場合と相関するものの、その性質は大きく異なっていることを示唆しており、EAT-10 の有用性を検証するためにも、非常に有意義な論文である。

本学位審査においては、公開審査における質疑応答も問題なかったことから、主査と副査 2 名による合議の結果、学位論文として価値あるものと判断した。